

レ線的ニ觀タ第一肋骨形態ノ肺結核症 ニ對スル關係ニ就テ

金澤醫科大學理學の診療科教室 (主任平松助教授)

西 東 利 男

Toshio Saito

時 國 宏

Hiroshi Tokikuni

(昭和17年11月29日受附)

内 容 抄 録

第1肋軟骨化骨状態及第1肋骨形態ト肺結核症トノ關係ヲ檢セルニ肋軟骨早期化骨又ハ肋骨形態異常ガ肺

結核ヲ惹起シ易カラシメル素質トナルト云フ説ハ尙充分檢討ノ餘地アルコトヲ明カニシタ。

目 次

第I章 緒 言

第II章 文獻的考察

第III章 2-3ノ觀察事項

第1節 第1肋軟骨化骨ノ有無ニヨル觀察

第2節 第1肋骨畸形ノ有無ニヨル觀察

第3節 第1肋骨弓ノナス上下徑對左右徑ノ比率ニヨル觀察

第IV章 總 括

第V章 結 論

文 獻

第I章 緒 言

一般ニ疾病罹患ニ關シテ二ツノ要素ガ考ヘラレル。一ハ素質デアリ、他ハ環境デアル。

現今醫學ノ進ミツ、アル一研究方向トシテ民族醫學ヨリ體質學ヘノ途ガ拓カレツ、アルガ、之ニ關シテハ幾多先人ノ研究ガアル。

即チ彼ノ有名ナ滲出性體質又ハ胸腺淋巴性體質ノ如キハ疾病ニ對スル素質ノ重要性ヲ認識セシムルモノデアル。

結核ニ關シテモ、農村又ハ工場ト結核、結核ノ家族内傳染ナド環境ノ重要ナルコトハ言ヲ俟タナイガ、結核ト素質ニ就テ、何等カ特別ナ關

係ガ見出サレハシナイカ、之ニ就キ先人ハ又種々ナ立場ヨリ研究ヲ進メ、賛否相半バシ確タル結論ヲ見出シ難イ。換言スルナラバソレホド結核ト體質ノ關係ハ複雑デアリ、一面環境ニ支配セラレルコトノ大ナルヲ思ハシメルモノデアル。

余等ハ「レ」線學的ニ結核ト體質トノ關係ヲ追及セントシ、先ヅ第一肋軟骨化骨狀況及ビ囊ニ發表セル第一肋骨形態トニ基礎ヲ置キ之ガ檢討ヲ試ミタ次第デアル。

第II章 文 獻 的 考 察

Freund 氏等ガ 第一肋軟骨早期化骨ガ 肺尖結核ニ對シテ局所素因トナルト稱シテヨリ、此機械的素因説ニ對スル檢討ハ數多ク行ハレ、シカモ必ズシモ一致セル結果ヲ得テ居ナイ。

Assmann 氏ナドハ之ヲ否定シテキル。然シ Schinz, 高垣, 森澤氏等之ニ賛同シ、小林氏モ亦、健康及ビ肺結核ノ兩者ヲ比較研究シ、後者ニ於テハ前者ニ比シ稍々早期ニ第一肋軟骨ノ化骨ヲ伴フモノ多シト述ベテキル。然シ早期化骨ガ機械的ニ局所素因タリトノ説ニ對シテハ、早野氏ノ報告ハ之ヲ全面的ニ否定シ、又現今浸潤ガ必ズシモ肺尖部ヨリ初マルモノデナイトノ見解ガ強ク、之等ニ關シテハ尙充分ナル檢討ガ行ハルベキデアリ、立入氏ナドモ、第一肋軟骨早期化骨ハ必ズヤ肺尖結核症ト何等カノ關係ヲ有スルト考ヘラル、トシテキルガ、早期化骨ガ極メテ輕微ナルモノニ過ギナカツタト報告シテキルノデアル。

又第一肋骨異常主トシテ發育不全ト肺尖結核トノ關係ニ就テハ Schinz ハ胸廓上口ヲ狹クシ通氣ヲ不充分ナラシメルタメ結核ニ對スル局所素因ヲ形成スルト云ヒ、笠原氏ハ第一肋骨形態異常及頸肋骨所有者ニ胸部結核性疾患ヲ多ク見

出スト報告シテキル。多田氏ナドノ檢索ノ結果ハ必ズシモ之ト一致スルモノデハナク、只斯様ナ異常肋骨所有者ガ一般ニ體質劣等性ヲ有シ結核性疾患ト關聯深キモノト思ハレルト述ベテキル。余等モ亦曩ニ第一肋骨發育不全ガ必ズシモ肺尖結核ヲ伴フ率大ナラズ、且單ニ「レ」線的ノミニ發育不全ト體質劣等性トヲ結ビツクルヲ得ナイデアラウト述ベタ。

尙 Schinz ハ發育不全ナクトモ兩第一肋骨弓ノ圍ム面ガ縱橢圓形ナルハ體質劣等者ニ多ク仍テ結核ニ罹患シ易シト唱フルモ、之ニ關スル研究ニハ組織立ツタモノヲ見ナイ。余等ハ曩ニ第一肋骨形態ノ數量的觀察ヲナセル際ト同様ナ方法デ之ガ檢索ヲ試ミタ。

之ヲ要スルニ、第一肋軟骨早期化骨、第一肋骨發育不全、第一肋骨弓ノ狹長ガ、肺尖結核ニ對スル局所素因タリ得ルカ否カニ關シテハ確タル結論ヲ得テ居ラヌト云フガ正シイ。只カクノ如キ現象ガ體質劣等性ノ部分現象デアルコトハ承認シ易キモ、之ト肺尖結核トノ關係ニ就テハ未ダ何等確タル根據ヲ有シテ居ラヌト觀ラル、ノデアル。

第III章 2-3 ノ 觀 察 事 項

第1節 第一肋軟骨化骨ノ有無ニヨル觀察

余等ハ化骨ノ有無ノ判定ニ際シ第一肋骨ノ先端ニ細キ輪狀又線狀程度ノ稍々濃厚ナル陰影ヲ作ルモノヲ除外シ、ソレ以上ニ進行シテ少ク共盤狀又ハ層狀ヲ呈セルヨリ、突起ヲ形成スルモノノミヲトツタ。コレハ浸潤ヲ有スルモノニ於テハ、余等ガ除外セル程度ノ化骨陰影ハ、浸潤

陰影ノ中ニ識別スルコトガ必ズシモ容易デナク、從ツテ浸潤無キモノトノ比較ニ正確ヲ期シ難キ爲デアル。

取扱ヘル總數ヲ年齢別、性別、化骨ノ有無、浸潤ノ有無ニテ分類スルニ次表ノ如クデアル(第1表)。

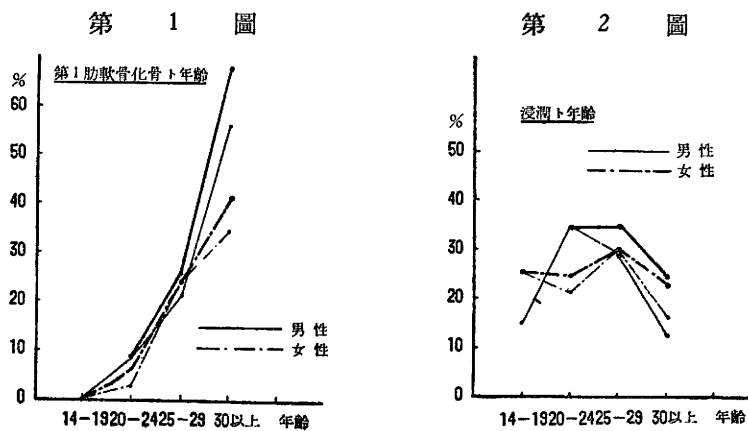
第 1 表

年 齡	性別	例數	1 類 化骨セルモノ	2 類 浸潤(肺尖)	3 類 浸潤兼化骨(肺尖)	4 類 化骨 } 無キモノ 浸潤
14-19	♂	240	0	36(27) 15.0(11.3)	0	204 85.0
	♀	215	0	54(35) 25.1(16.3)	0	161 74.9
20-24	♂	132	11 8.3	45(30) 34.1(22.7)	0	76 57.6
	♀	89	3 3.4	19(10) 21.3(11.2)	3(2) 3.4(2.2)	64 71.9
25-29	♂	113	24 21.2	33(24) 29.2(21.2)	6(5) 5.5(4.5)	50 45.5
	♀	53	13 24.5	16(9) 30.2(11.2)	0	24 45.3
30以上	♂	110	62 56.4	14(10) 12.7(9.1)	13(9) 11.8(8.2)	21 19.1
	♀	84	29 34.5	14(10) 16.7(11.9)	5(3) 6.0(3.7)	36 42.9

(太字ハ實數, 細字ハ%)

(肺尖)トアルハ肺尖ノミ及肺尖ニモ浸潤アルモノヲ指ス.

之ヲ圖示スルニ第1圖及第2圖ノ如クデアル.



(太線ハ浸潤兼化骨ノモノヲ各化骨ノミヲ示スモノ及浸潤ノミアルモノニ含メタル場合)

之ハ次ノ如ク要約スルコトガ出來ル様デア
ル。即チ化骨ハ14-19歳ニ於テ認めラレナイガ

以後次第ニ増加スル。男子ハ女子ニ比シ稍々早
期ニ始マリ早期ニ最高値ニ達スル。

浸潤ハ女子14—19歳ニ、男子20—24歳ニ夫々比較的多ク、以後ハ著差ヲ示サナイ。率ノ比較的大トナツタノハ、當科ヘノ患者ハ胸部疾患ノ疑ヒニテ來ルモノガ多イカラト考ヘラレル。

化骨兼浸潤ノモノハ若年ニ少ク高年ニ多イガ一定ノ傾向ハ示サナイ。且高年ニハ化骨極メテ多クナルカラ偶然ノ符合ト考ヘラレスコトモ無イ。

之ヲ要スルニ余等ガ化骨ト認メル方法ニヨリ、之ガ浸潤トノ關係ヲ調査スルニ上述ノ如ク、化骨ヲ伴ハヌ浸潤ガ極メテ多ク存在シ、化骨兼浸潤ガ高年ニ稍々認メラレルモ高年ニハ自然の化骨多キコトヲ考ヘレバ、此ノ間ニ有意味ナ關係ヲ見出シ難イ様ニ思ハレル。

而シテ以上ハ明カニ肺野ニ浸潤ヲ有スルモノノミヲツタノデアツテ、輕度ナル肺門部ノ變化ハ考慮ニ入ツテ居ラヌコトヲ明記シナケレバナラナイ。即チ胸部ノ結核性病變全部ヲ含メルモノデハナイ。之ヲ含メルコトハ實際上極メテ困難デアルガ、若シモ何等カノ規準ニ於テ考慮ニ入レ得ルトスレバ、1類並4類ハ減少シ、2類並3類ハ増加シ、胸部結核ト化骨トノ關係ハ今少シク密接トナルカモ知レナイ。

尙化骨ト結核ノ關係ガ肋軟骨化骨ノ爲胸部結核ヲ來シ易キカ、結核症ノタメ早期化骨ヲ惹起スルカノ見解ノ相違ニモヨリ、後者トスレバ必ズシモ胸部ニノミ結核ヲ證明シナクテモヨク從ツテ結核ト化骨ノ關係ハ今少シク密接トナルカモシレナイガ、之ハ檢索外ニアルモノトシテコレ以上追及スルコトヲ避ケヤウ。

第2節 第一肋骨畸形ノ有無ニヨル觀察
・囊ニ余等ハ1143名ノ「レ」線フィルムヲ觀察シ7例ノ發育不全ヲミタ。ケレドモ何レモ肺浸潤ハ有シテ居ラナカツタ。之ハ極メテ觀察數ガ少ク、コレカラ胸部結核ト無關係デアルトナスハ早計ト思ハレルガ發育不全トソシテハ高イ相關關係ヲ有シテ居ラナイコトハ考ヘラレル様デアアル。

惟フニ畸形ガ體質劣等ノ部分現象デアリ他ノ骨系統ニ異常ヲ伴ツテキルコト多イコトハ充分

理解セラレ、且之等ノモノガ結核又ハ他ノ疾病ニ罹患シヤスイトノ說ハ承認セラレルガ、機械的ニ局所素因トナル說ニハ贊同シ得ナイ。發育不全ナルタメ逆ニ局所壓迫ガ少クナイカトモ考ヘテミナケレバナラナイ。

要スルニ此ノ問題ニ就キ、余等ハ肺結核トノ間ニ深キ關係ヲ認メナカツタコトヲ指摘スルニ止メテ置カウ。

第3節 第一肋骨弓ノナス上下徑對

左右徑ノ比率ニヨル觀察

上下徑及ビ左右徑ハ余等ガ囊ニ第一肋骨形態ノ數量ノ觀察ヲナセル際ト同様ニシテ計算シタ。

此處ニ於テ全例中

- 第一肋軟骨化骨ノミヲ示スモノ
- 化骨ナク肺浸潤ノミヲ有スルモノ
- 化骨モ浸潤モ無キモノ

ノ3群ニ分チ各平均値ヲ求ムレバ次ノ如クデアアル。

第 2 表

平均値	M ± σ		
	浸 潤	化 骨	兩者ナキモノ
狀況別			
性別			
♂	49.9±5.50	50.9±5.05	50.1±5.20
♀	51.0±5.00	49.5±4.90	49.7±5.15

第2表ヨリ明カナル様ニ、第一肋軟骨ノ化骨セルモ、シナイモノ、浸潤ヲ有スルモノ、有シナイモノ、スベテソノ間ニ此ノ比率ノ著差ヲ認メ難イ。即チ第一肋骨弓ノ強弱トハ凡ソ無關係デアルト信ズルノデアアル。若シ此ノ比率ニ差アル様ミカケラレルヲ意味アル如ク解釋スルハ不適當デ、漸ク平均誤差以外ニ出ルトスルモ浸潤ノウチニ萎縮性變化ナド存在スルト、原因、結果ノ何レニ存スルカハ不明トナルデアラウ。

尙浸潤兼化骨ノモノハ例數少ク27例ヲ數フルノミデ、之ガ平均値ヲ比較スルコトハ不正確ト思ハレルノデ敢ヘテ行ハナカツタガ算術平均M=51.9デアツタ。

第IV章 總 括

第一肋骨形態ト肺結核トノ關係ヲ檢索スルニ當リ、先ヅ肺結核ノ結果惹起セラレル事項ヲ除外シ、形態ニ何等カ特異ナ點ガ存在シテ結核ヲ來シ易イカ否カラ觀察スルコトハ必ズシモ容易ナコトデハナイ。ソノ第一ガ第一肋軟骨化骨ト肺結核ノ問題デアル。早期ニ化骨スルモノニ肺結核ガ多イカ、結核ノ人ニ早期化骨ガ來ルカハ極メテ決定シ難イコトデアル。ガ何レニシテモ肺結核ト第一肋軟骨化骨トガ伴ヒ易イカドウカニ對シテ前述セル如ク幾多先人ノ研究ガアリ贊

成スルモノ否定スルモノ區々デアル。余等ハ化骨ノトリカタニ異ル所アル故カ肺結核ト第一肋軟骨早期化骨ノ間ニソシテニ密接ナ關係ヲ見出スコトガ出來ナカツタ。一步ユズリ、先人ノ兩者間ノ關係ヲ承認スルモ、化骨ノ進行ト肺結核トハ何等特種ナル關係ヲ有シテ居ラヌコトハ明カデアルト考ヘル。

又第一肋骨發育不全及ビ第一肋骨弓ノ強弱ガ肺結核ト何カ關係アルノデハナカラウカトノ推論モ明カニ之ヲ證明スルコトガ出來ナカツタ。

第V章 結 論

第一肋軟骨早期化骨並第一肋骨形態異常ト肺結核トノ間ニ別シテソレ程密接ナ關係ハナイ様

ニ思ハレル。

文 獻

- 1) Freund, Über Thoraxanomalien als Prädisposition zur Lungenphthise und Emphysem. Berlin. klin. Wochensch. 1902, Nr. 1. 2) Assmann, H., Klinische Röntgendiagnostik der inneren Erkrankung. 3) Schinz, H. R., Lehrbuch der Röntgendiagnostik. 4) 早野常雄, Die Röntgenologische Forschung über die Gelenkbildung am ersten Rippenknorpel. 日本レントゲン學會雜誌, 第5卷, 第2號. 5) 小林滋, 肋軟骨化骨狀態ノ「レントゲン」學的研究. 十全會雜誌, 第32卷, 第3號. 6) 高垣秀雄,

- 森澤誠一, 結核患者ニ於ケル肋軟骨化骨ノ「レ」線の觀察. 大阪醫事新誌原著版, 第6卷, 第9號, 7) 多田秀雅, 上田正明, 肋骨畸形ノ「レントゲン」的觀察. 十全會雜誌, 第43卷, 第5號. 8) 多田秀雅, 肋骨畸形ノ「レントゲン」的觀察. 十全會雜誌, 第44卷, 第2號. 9) 立入弘, 「レ」線のニ觀タ結核性疾患ニ對スル素因ノ問題. 倉敷中央病院年報, 第16年, 第1號. 10) 西東利男, 時國宏, 胸部「レ」線寫眞ニ現ハレタル第一肋骨形態ノ數量的觀察. 十全會雜誌, 第48卷, 第5號.